古北新句

かい

紅葉文庫

加

新無名哀傷
さらりまつくさのうらとこの
ありしかとも人のかたりつたへ
つくもはあらきあれはいとあはれ
かりしかとあはれ
古今集三
かりしかとあはれ
捨遺集哀傷
かりしかとあはれ
新古今集
かりしかとあはれ
玉葉集
かりしかとあはれ
後拾遺雜上
かりしかとあはれ
新拾遺雜上
かりしかとあはれ
月清集上
かりしかとあはれ
後拾遺雜下
かりしかとあはれ
新葉雜下
かりしかとあはれ
後拾遺雜下
かりしかとあはれ
新後拾遺雜下
かりしかとあはれ
風雅哀傷
かりしかとあはれ
千載哀傷
かりしかとあはれ
後拾遺哀傷
かりしかとあはれ

中務卿宗良親王
かりしかとあはれ
かりしかとあはれ

故京極黄門
かりしかとあはれ
かりしかとあはれ
かりしかとあはれ

新張古今　六
拾遺六十
同上
新千五
新拾六
新後拾六
新後古今
張千五
風雅五
同五三
新古今抄
拾玉集二
新後五
新千五
新拾五
新後拾五
張後拾五
張後古今

新後五
玉葉五二
新勅五
張後撰五
張千古今
新張古今
拾玉集四
壬生二品上
張千雅
新千五三
風雅五
同
新後拾五
張千五
拾遺六十上
新張古今
風雅五
新千五

中宮
一條太政大臣女
信實卿ト
中務卿ト
後鳥羽
藤原定家卿
藤原行能卿ト
前侍従
藤原為家卿
藤原家隆卿
藤原定家卿
藤原為家卿
藤原家隆卿
藤原定家卿
藤原為家卿
藤原家隆卿
藤原定家卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　かつれとうらんちもせぬ　一条院御歌
拾玉集上　[illegible]　かつるるよんまつへく　新拾
玉葉集下　[illegible]　かつるる世をも[illegible]　[illegible]
拾玉集又　あ[illegible]　かつるる[illegible]
胡蝶　[illegible]　[illegible]
拾遺長傷　[illegible]　清原元輔
玉葉集二　[illegible]　後[illegible]
新後古上　[illegible]　[illegible]
拾玉集二　[illegible]　[illegible]
拾遺負外上　[illegible]　[illegible]
月清集上　[illegible]　[illegible]
長秋詠藻　[illegible]　[illegible]
拾玉集二　[illegible]　[illegible]
同　[illegible]　[illegible]
拾遺名上　[illegible]　[illegible]
月清集上　[illegible]　[illegible]
新拾雜秋　[illegible]　[illegible]
新拾名三　[illegible]　[illegible]
新後名三　[illegible]　[illegible]

拾玉集三　[illegible]　かつるぬるよ[illegible]　新後撰恋
新葉長傷　[illegible]　かつるぬるつ[illegible]　参議雅経
後古雜上　[illegible]　かつるぬるつ[illegible]
長秋詠藻　[illegible]　かつるぬる[illegible]
拾遺名上　[illegible]　かつるぬる[illegible]　沙弥蓮
後拾名上　[illegible]　かつるぬる[illegible]
新葉名三　[illegible]　かつるぬる[illegible]
後子名三　[illegible]　かつるぬる[illegible]
後撰名三　[illegible]　かつるぬる[illegible]
新古賀　[illegible]　かつるぬる[illegible]
拾遺名上　[illegible]　かつるぬる[illegible]　[illegible]
後拾名三　[illegible]　かつるぬる[illegible]
新後名三　[illegible]　かつるぬる[illegible]　[illegible]
拾遺名下　[illegible]　かつるぬる[illegible]
同上　[illegible]　かつるぬる[illegible]
後撰名三　[illegible]　かつるぬる[illegible]　後家長朝臣
拾遺名下　[illegible]　かつるぬる[illegible]
新拾名下　[illegible]　かつるぬる[illegible]　[illegible]

玉葉秋上　いにしへのこゝろ[illegible]

続千載上　[illegible]

続千載賀　[illegible]

続拾遺上　[illegible]

風雅雑下　[illegible]

同賀　[illegible]

新千載賀　[illegible]

拾遺愚草下　[illegible]

拾遺愚草上　[illegible]

続古雑中　[illegible]

続後撰雑下　[illegible]

新後拾遺雑　[illegible]

新葉賀　[illegible]

続千雑下　[illegible]

続後拾遺雑　[illegible]

新葉雑下　[illegible]

続拾雑上　[illegible]

新千載秋下　[illegible]

同拾遺　[illegible]

新後撰恋　[illegible]

新古今傷　[illegible]

風雅雑上　[illegible]

続後拾遺雑　[illegible]

千載秋下　[illegible]

新後撰賀　[illegible]

月清集下　[illegible]

新後拾遺春　[illegible]

玉葉雑上　[illegible]

続千雑中　[illegible]

月清集上　[illegible]

新続古雑下　[illegible]

新古雑下　[illegible]

長秋詠藻　[illegible]

続古雑下　[illegible]

河内秋　[illegible]

新後拾遺春
後撰拾遺春
玉葉集三
新後拾遺秋下
後撰拾遺春
新後拾遺夏
同三
後撰拾遺秋
壬生二京中
新後拾遺三
拾遺集夏
山家集上
後撰拾秋上
後拾遺雜上
山家集下
後古今賀
同夏二

新後古今名
新後拾遺春
拾玉集三
千載夏三
後撰拾遺二
後撰拾遺一
後撰拾遺二
拾玉集二
同七
同云
同名
千載夏四
新後古今
壬生二京中
新古秋上
後古秋上
風雅雜上
拾玉集三
同四

月清集上　かつてもかはらぬ月のかげかな　[illegible]
続後撰巻三　霧ぬきもみぢの色のまがきかな　[illegible]
千載巻三　七夕ぞあまのとわたる舟の音　[illegible]
新勅撰上　わたるなりもとの水の大井河　[illegible]
拾遺秋　秋風にあはぬ人の心のあきぬれば　[illegible]
続千載巻三　[illegible]
風雅巻十　[illegible]
続千載巻三　[illegible]
山家集上　[illegible]
続千載巻四　[illegible]
壬生二位中　[illegible]
拾遺集七　[illegible]
玉葉集雜一　[illegible]
拾遺秋　[illegible]
長秋詠藻上　[illegible]
新勅撰下　[illegible]
続拾秋下　[illegible]
拾遺哀傷　[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

後撰集巻十
風雅集巻十
拾玉集十
新葉集巻十
後拾遺雅人
新後撰上
新後拾遺
新後拾遺
拾遺雅上
拾遺集巻上
拾遺集巻上
大和物語
後拾遺巻
大和物語
新後拾遺
新後撰中
新後撰中

後撰集巻
拾玉集五
拾遺集巻外上
後拾遺
新後拾遺上
拾玉集五
新葉集
新後拾遺三
新後撰下
新葉集上
拾玉集
同三
新千巻二
後撰集巻
新千巻二
拾玉集
新千巻一
後撰集巻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾玉集六
殘拾遺三
千載巻二
新殘古今
拾玉集六
同七
同四
新古今
同巻上
拾玉集四
玉葉秋下
拾遺愚抄下
殘拾遺
殘夜一
新勅撰
新後拾遺三
新葉秋上
新千秋上

出行雲の月まちかねて
初つかなみだ松をうらめしと
殘る花を惜しむ春の
はるの山ぶかき世をあけぬ
梅のかをるひかりの月の
吉野山みやこ
ゆかしき
ながめ
流れ
月の
風さえてうすれゆく
うつしとる
七夕のあまの羽衣
織りかさねたる月

かつる袖よりあふれ
かつる露なみだ
かつる月をこそ
かつる雲
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる

皇太后宮大夫俊成
後鳥羽院御
道一法親王
前関白太政大臣
摂政太政大臣
花山院
前中納言定家
順徳院御製

壬生三位中
月清集上
殘拾遺雜秋
同巻二
拾遺愚抄
壬生三位上
千載巻上
月清集上
殘拾遺
玉葉雜一
殘古今
玉葉巻上
千載巻
新後拾遺
新後拾遺
風雅巻
山家集下
詞花雜上

かつる袖もあふれ
かつる
かつる野中の
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる
かつる

源俊頼朝臣
藤原定家朝臣
新院御製
藤原俊成
大中臣能宣朝臣
大江匡房
藤原実定
仲実卿
藤原公経
西三位実隆
藤原為家

千載雜下
新後拾遺雜下

西行法師
藤納言資朝卿
従二位家隆
基俊
源重廣
従二位家隆
藤中納言定家
藤原雅経卿
従二位家隆
藤中納言資朝
従二位家隆
源重廣
西行法師
藤納言資朝
従二位家隆
基俊
源重廣
従二位家隆
藤中納言定家
藤原雅経卿
従二位家隆
藤中納言資朝

新古哀三　うちつけに　清慎公
拾遺員外上　行春乃雪消ぬ衣ぬぎかへて　かつるもきさらぎ
後拾遺員外下　見つるもとしのひやまの　清原定雅
拾玉集四　さ海くれなゐ　かつるもさくらはなれ松原
同　一とせを送りむかへる　かつまちやそ年ぶりの
新後拾雑長　あるてまちるもあるぬ　かつまちてふ年ぶりの金
新勅哀四　夕やみ道たどる　花原雅経
新後拾雑春　吉野の里の　かつらはまつ金
後拾遺哀上　ちるまでは　かつらはまつ金
同雑三　行もすまいつと　清河上人
後拾遺哀三　月見れば　かつらはれ人の　加賀大進
新葉哀　うれ河夕　かつぬるを　後鳥羽朝臣
千載雅傷　考へ　かつぬるを　衣笠内大臣
拾遺員外上　ちり　かつぬるを　冷泉今出川
後拾遺哀上　賤の　かつぬひ　清原元實
新古雑下　哀ら　かつぬ月　藤原雲雅
後拾遺哀上　行春　かつぬ　大僧都
拾遺哀上　命ら　かつぬ　春山法橋

拾遺員外上　あもうけ　かつぬ昔表い　とせ
後千雑下　行年　かつぬ　清原雅経
新古哀教　鶯は　かつぬ　藤原定家
新後秋下　月の　かつぬ　藤原信実
拾遺哀上　ひすれ　かつぬ秋　河内裏
新千哀　うつ　かつぬ　紅月清輝
拾玉集一　あつ　かつぬ　藤原定家
新後古哀傷　佐山　かつぬ　大僧都
新千哀傷　ぬて　かつぬ　義運
新後古哀傷　なき　かつぬ　僧正
同冬　風　かつぬ　二位尼信
風雅秋下　風　かつぬ　寺尼
拾玉集又　長　かつぬ　藤原為家
新後古雑中　いと　かつぬ　長雅
新拾雑中　秋の　かつぬ　持中納言
後千秋上　ま　かつぬ　雅縁
新後拾雑中　ま　かつぬ　藤原為家
後拾遺秋　いと　かつぬ　相模

新古雜部
新古雜部
千載集
同上下
新後撰上
後撰集
拾遺集雜
拾玉集七
玉葉雜一
拾玉集三
同一
新拾遺下

色はかはらぬ春の花の梅の香
かへらんとすれども春のかへらぬ
春の花の梅の香
かへらんとすれども春のかへらぬ
春の花の梅の香
かへらんとすれども春のかへらぬ

壬生二条中
後撰雜別
新後古雜後
後撰恋四
後古恋二
新後拾恋上
後拾恋一
後千秋下
山家集上
夕顔
古今物名
同恋一
拾遺恋三
金葉恋三
新古恋上
紀幸
名所
拾山集三

山桜みてをきつれば春風の
かへるころをしらぬ
かへるころをしらぬ
かへるころをしらぬ

捨遺 自外上
新古秋下
風雅秋中
山部集下
同
同
新続古雅中
拾遺抄上
新拾遺雅
新拾秋上
新千反
続千雅秋
新菟玉集上
新勅撰雅
続千雅上
新古秋下
新続古雅中
続拾秋上
新千秋下
続歌

壬生二京上
新拾遺
拾玉集二
捨遺 自外上
新千秋
大和物語
新続古雅
新古今秋下
古今雅下
伊勢物語
拾遺雅二
拾遺秋

秋乃夜月ハなにとみそなはしけん
白雲をつくさんはてゆくえ
て時雨雲ふるさとの秋
庭とおもふ水のまもなく
花の雲ふるさとつもる
庭ふるさとのあしの
老らくの秋乃夜月
白浪のよるのまもなく
ものもうくわれもうきの海
さらぬ秋ハ
てハ雲ふるとの
本情山ゆくゆくの
山ハ
天河
いつくまでもあれと
いつくまでもあれと
君ゆくまでもあれと
ふるさとの
いつくまでもあれと

かたたれのこの山
かたくれのあしたの
かたくれのあしたの
かたくれのあしたの

秋の山のもみぢ葉の色をもとめて
山のあらしの風のおとにぞ
かりはなのこゑもまぎれぬ
うきめをみてあるこゑ
うらもなくもの思ふ
みてもあきの山の
かりはなのこゑもまぎれぬ
ものうれしくもあるこゑ
伊勢物語
ふるさとの花の
ちりのまがふこゑ
花の原を経
四三位

陽成院御歌上
陽成院歌合二
古今歌五
名歌歌四
後撰歌下
新勅撰歌
伊勢物語
陽成院千歌四
陽成院歌二
陽成院歌一
千生二京上
同下
同上
陽成院歌合
陽成院歌一
名歌歌四
新勅歌二
院遍歌二

秋の山のもみぢ葉の色をもとめて
うきめをみてあるこゑ
うらもなくもの思ふ
みてもあきの山の
かりはなのこゑもまぎれぬ
ものうれしくもあるこゑ
伊勢物語
ふるさとの花の
ちりのまがふこゑ
花の原を経
四三位

二条太宮大臣
中務卿親王
上西門院兵衛
とりかへ女

壬生二条上
新後撰歌
拾遺歌
玉葉歌上
拾遺歌
同中
陽成院歌上
玉葉歌下
後拾遺歌
後撰歌下
同雜歌
新後撰上
新古歌下
新後撰歌
拾遺歌上
新勅撰
新後撰
新後撰歌下

雲ゐ
秋の風
姫
月の
山さとの門田
秋
秋
ひさ
秋
秋
秋の
秋
秋
秋

新拾雜上　玉葉冬　拾遠員外上　新續古哀　續後拾哀二　續後撰雜上　新續古雜　續後拾秋下　新千哀　風雅恋　續後拾哀　玉葉恋　拾遺恋五　續千載恋　千載哀　玉葉恋　新古哀　新後拾哀

院御製

なかつきの月のかげをまちかねてあけぬるかとのうらにこそ寄

かりそめにふかぬ日もなしあきかぜのうらにこそ寄

かりそめにひとりぬるよのあけぬるかとのうらにこそ寄

かりそめにまつ日のかぎりあけぬるかとのうらにこそ寄

かりそめにあけぬるかとのうらにこそ寄

かりそめにあけぬるかとのうらにこそ寄

かりそめに

壬生二条中
拾遺雲葉
新千載傷
拾玉集六
古今秋下
新拾秋上
拾遺雲葉
新千載下
新後拾遺
続古歌撰
続拾雑下
拾玉集七
壬生二条下
拾玉集六
詠雑
続千載雑
後拾撰春中
新千載三

秋はいまはかぎりの春ぞあるしら
雲のうへにてはなを見るかな
紅葉ぬしよりとはなを見へしや
かりそめにもとはぬ人の神の春
かりそめにもとはぬ人の神の春
秋の花乃春とはいはじとこそ
春のうへの春とはいはじとこそ
ありあけの月のかげにうつろひ
ありあけの月のかげにうつろひ
春ぞ秋下
秋はいまはかぎりの春ぞあるしら
世中とかくもてはやしてかく
世中とかくもてはやしてかく
今こそとひとしてもてはやす
今こそとひとしてもてはやす
春ぞ秋下
春はいまはかぎりの春ぞあるしら
世中とかくもてはやしてかく
世中とかくもてはやしてかく

張古墨帳
拾玉集三
金葉集
後撰集上
張古紙帳
彰拾遺
玉葉集上
古今春下
彰勅撰一
張後拾遺上
古今集上
掛
彰古紙帳
張後撰集上
撰
張古紙帳
彰拾遺
玉葉雜二
風雅集
張古集三
拾玉集
風雅雜下
張拾雜下
彰後拾遺
張後拾紙帳
大和物語
玉葉雜上
彰拾遺
張古集一
同三
彰拾遺
彰古集三
彰古集二
拾遺
拾玉集

壬生二条ト
玉葉抜
新葉霧抜
続ト点一
風雅点二
新ト点三
玉葉点又
同雑四
新ト点一
新葉雑中
続古雑中
続後撰雑
拾玉集一
続拾雑上
拾遺葉ト
ト我秋紙
新拾春傷
伊勢物語

かゝるもつても若ちりさと
かゝるたひねをんなかて春
かゝるしひ縁も春ちる海
かゝるつてきに浦の黒船
かゝる月ちとはりてしく
かゝるあこうはなりし地と
かゝるなれもちらるれい
かゝるあるさはあしきしを
かゝるあるさはあしきしを
かゝるあるさはあしきしを

拾玉集一
新古今二
山家集
拾遺愚草
金葉集上
千載衣一
千載拾雑上
月清集下
風雅秋上
後撰雑四
新勅撰
新後撰
新後雑下
千載哀傷
長秋詠藻下
千載古雑中
千載後撰雑
新古雑上
拾遺雑上

とゝまりけるはなにぞ
きゝねとたのみの山の
けるつゆのゆめ
黒かゝるたゝりの海
たゝくさ秋のこぬ
うゝつこねのこゝろ
教ゆめのこゝろ
君なのゝ
ゆ
いはれこゝに
みのりを
法華
世
ゆ
ゆ
ゆ

殘古春下
拾遺貞躬
古今春上
山家集下
後撰夏上
寂蓮二
後拾遺秋上
殘拾冬三
新後冬
新葉冬
拾遺雜春
金葉春
古今雜躬
殘古秋上
後拾
山家集下
後撰春傷
同春六

かすみたちかくれにしかのみてをうれ
ぬ風のしらなみのうらのはるの
はるかすみたちかくれにしかのみてを

玉鬘

同

新千巻二

拾玉集又

拾遺巻後

新拾巻

新勅雅巻

壬生三巻上

続拾雅巻

続拾遺巻二

新千雅上

新千巻一

新拾巻二

新千巻

新千巻二

拾遺巻上

新拾巻

君ゝ[illegible]松浦なる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

同三
風雅 恋四
拾玉集 六
玉葉 恋四
続千 恋一
新千 恋一
新葉 恋四
新続 恋三
玉葉 月雪
新続 恋二
月清集 上
新続古 雜中
拾遺 恋三
拾玉集 二
月清集 上
拾玉集 三
新続 拾秋 上
続後拾 恋四

とけやらぬ松の下ぬれつゝ
今夜ぞ月をとゝのへて
いつしか月にとゝのへて
ぬるとも夢にたのまじ
えぞ思ひ出ぬ
たゝぬ世の
かゝる恋にぞ
かゝる恋にぞ
かゝる恋にぞ

拾遺愚秋　雪ふるさとの松ふかき夜の月
古今夏　なとはなきうの花ふかき夜の月
風雅夏　山かの玉井日影へたてるそこ
拾遺愚秋　きりとみて神ゐ波月をくく
新後拾夏二　くもとあるうつ物とうれ
壬生二郎上　雨ふるは雲ぬうちあれ
続千載雜一　みちはく御の白浪をうれ
続古雜上　ありしかの秋世の玉井思ひてみ
風雅雜下　ちりてふるさとはもまちくも
玉葉雜六　くもとりもれと思ひかをあき
新後古夏　月ふる山風とうをあ沢あ
長秋詠藻上　ふるさあん波のせまて月思ふ
伊勢物語　下河の玉ちとすもけ月ふ
俊成卿三　ちてひりはるうとすてみき
新古春傷　続拾むりはとうろう那
拾玉集六　さ秋のつまこうのへいろと
同四　なるとかくうふうとうも春
繪合　ひとりのうとうとうあひ

かくしのあるとあるも咲ふう
かくへすしきふるの雲　まうも
かくしも海底風そもし　あるとのあるあ
かくとしもかくもかくもし　花京ええ
かくとうかくれるの月　
かくしきけもしかある　俳人石
かくちうの花さうしれ　花中納言長方
かくちうはあひてうの　俊定卿　字不典侍
かくちうれ思ひかをあき　經三位度れ
かくちうれ思ひかをあき　俊京卿
かくちうれ思ひかをあき
かくちうとうとうすてみき
かくちうとはかるまれ　ちうへ金ちうし
かくちうとうしうちうあ　左近衛都督
かくはるとうあるうとあ
かくはるとうとうとうあ

金葉春　あさまうとうれ咲ちうれ風の海すれ
山家集上　山のあるとあるとうあるあ
続後拾夏二　ふひうとうあけるあ
壬生二郎上　いうとて波うもあうあ
山家集下　松山の波のうきうとを
続後撰雜下　星深よあうとうあ
於玉集七　あうとうあるあうあ
玉葉雜一　あうとうあるあうあ
風雅夏　ひとうとうあるあうあ
山家集上　郭公とうとうあ
続拾遺夏二　ふのひうとうあ
続拾夏　ふうとうあ
長秋詠藻　まうれうとうあ
金葉春　ちのひうとうあ
新後古夏　春の花うとうあ
新千夏　ちうとうあ
同

かくちうあけるあ　春文字文字
かくあるあうあ　
かくちうあ　秋部藏頭
かくちうあ　
かくちうあ　
かくちうあ　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千載冬
同秋上
続千冬
金葉別
新古雑下
続千夜
玉葉雑一
拾玉集三
新古冬
続千雑上
千載雑上
玉葉雑六
続後撰雑
新古秋下
玉葉秋下
続古雑上
風雅秋下
新後拾雑

月清集下
壬生二首上
新勅夜
同秋上
新後拾冬
続後撰冬
月清集下
風雅秋下
新古夜
新千秋上
千載雑上
新勅雑六
続拾遺二
風雅雑上
新葉雑三
月清集上
新葉夜

月清集上
強以撰之者
拍不
壬生二首上
強不書下
玉葉雜一
拾遺五首上
拾玉集四
玉葉五二
山家集下
玉葉神祇
拾玉集一
山家集下
強古雜下
新以撰雜
新不書又
新勅秋下
新以撰五三

雲は神もしらさしとなるまもの
あれこそとうもあるこの秋の
時もあれなるもあるもひかりん
なるもあるもあるもあるもひかりん
わたてかもあるもあるもある

類聚歌合

続拾遺三
千載四
拾遺雑上
続後撰上
新古今雑中
新勅撰雑四
新後撰雑上
新後拾遺雑上
新後撰雑中
新後拾遺雑中
新後撰雑下
新後拾遺雑下
新後撰雑上
新後拾遺雑上
新後撰雑四
新後拾遺雑四

新古歌抜
後拾遺恋四
新葉雑中
新千歌抜
続角
長秋詠藻下
新古歌抜
新拾恋一
新千冬
新後拾歌抜
拾遺恋中
拾遺負外下
後撰撰冬
同恋下
壬生二荒中
新後古雑上
風雅冬
新後古雑上

[illegible]
秋の野にやどりをまちし
中ぞえん地もあるまじき
せき侵めあまもちぬ
あ[illegible]
[illegible]
河風の吹上
かり秋ふる[illegible]
[illegible]
うすくこそ[illegible]
冬山の雪[illegible]
今[illegible]
[illegible]
[illegible]

古今多
後拾遺上
拾玉集七
新千載雑中
拾遺愚草下
後古今六
山家集下
拾玉集四
後拾遺上
山家集下
新千載秋上
新拾遺四
古今集三

伊勢物語
新後拾遺
新勅撰四
新後拾遺
壬生二条中
山家集
月清集下
拾遺愚草下
玉葉
拾玉集七
後拾遺
玉葉
月清集下
風雅
壬生二条上
拾遺愚草下
月清集下
新後拾遺

拾玉集五
新古今傷
心家集
新勅撰四
拾玉集六
同二
壬生二位下
同上
拾遺百首
新拾秋下
後千冬
新後拾雜秋
拾遺雜上
後千恋四
新千秋下
新古今
壬生二位中
新千雜下

春の心とゝまるしらぬ
はるのゝ霞ゝ
はるのゝ霞ゝ
はるのゝ霞ゝ

掛

拾遺哀傷

後拾遺雜上

壬生二首上

後拾遺上

千載哀四

後拾遺雜四

新拾遺

拾玉集四

月清集下

山家集上

壬生二首上

新勅撰雜

拾玉集六

山家集

風雜反

新拾秋下

新古反

山家集下

風雜冬

同長上

於遠賀

千載哀二

於玉集三

新後古反

新拾雜上

新後秋上

風雜雜中

於玉集六

壬生二首下

後拾雜上

後撰哀三

大和物語

後拾反

風雜五中

後拾撰上

山家集下

日新古反

日新古反

同長上

於遠賀

千載哀二

於玉集三

新後古反

新拾雜上

新後秋上

風雜雜中

於玉集六

壬生二首下

後拾雜上

後撰哀三

大和物語

後拾反

風雜五中

後拾撰上

後二位藤博

安和流製

うつの

流四製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰巻二
壬生二荒中
新撰和歌
風雅巻五
千載歌
新古歌
古今巻四
風雅歌
千載歌
拾遺巻五
古今雑別
後撰巻一
後拾遺巻
玉葉巻五
壬生二荒上
拾玉集六

新後撰中
玉葉巻三
新後拾遺
拾玉集七
同
新後撰巻
千載歌
拾玉集七
新勅撰二
拾玉集七
新後撰巻三
玉葉巻二
長秋詠藻
新後拾遺
後撰巻三
壬生二荒中
拾玉集二
古今六帖

千載冬
千載哀傷
続千載
古今秋下
新拾遺別
新古雑別
続千載
続後撰秋上
新後拾遺
続古今
続古今雑上
続千載秋上
拾玉集六
玉葉雑一
新後撰
新千載秋下
新拾遺
新千載三

秋とこそ思へ月のもとに流れ来る
かりのこゑとうれしきものを
かりのこゑとうれしきものを
はるの雲井と行くへ分けぬ
赤染月詣集
うれしきものを
かりのこゑとうれしきものを
かりのこゑとうれしきものを
かりのこゑとう

山家集上
千載雜下
山家集下
新後雜上
拾遺雜中
新後拾上
同秋上
拾遺雜上
新古秋上
続拾雜上
新古秋下
後拾遺雜二
新古春傷
同秋下
風雜中
新勅秋下
山家集上
後撰秋中

山家集下
続古秋下
拾遺貞秋
玉葉雜四
千載秋下
新古冬
古今雜体
玉葉雜四
拾遺秋
新千秋下
後撰雜四
後拾遺雜二
新古春傷
拾遺雜上
千載雜
新勅雜二
古今雜二
壬生二京中

新千載下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
古今秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
伊勢物語　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
千載秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
風雅秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
拾遺愚草下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新千載秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
風雅秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
古今文　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
続拾秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
拾玉集六　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新千載　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
拾遺愚草下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新勅撰三　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
長秋詠藻上　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
古今雜上　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新古今一　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸

新千載下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
古今秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
伊勢物語　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
千載秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
風雅秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
拾遺愚草下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新千載秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
風雅秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
古今文　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
続拾秋下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
拾玉集六　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新千載　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
拾遺愚草下　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新勅撰三　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
長秋詠藻上　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
古今雜上　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新古今一　ちぢのうつりしかはるとも
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸

玉葉秋　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新古今　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
続後撰一　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
金葉雜下　芦成乃山のまつかぜ
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新葉雜中　同
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
続千載秋上　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新拾遺雜中　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新勅撰雜中　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
壬生二条中　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新葉雜一　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新勅撰雜中　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
続後拾遺一　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
続千載秋上　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
山家集下　同
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
続拾遺雜上　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
伊勢物語　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新古今雜中　秋ともなれば
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸

皇太后宮大夫俊成
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
金葉雜上　同
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
新葉雜中　同
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
菅原宣經
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
盛房法師母
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
中務卿親王
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
藤原為家
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸
登蓮法師
　　かくれなきまつのこゑかな　人丸

風雅五中　新勅撰二　長秋詠藻下　続古雅中　拾葉賀　風雅一　古今三　拾遺別　新続古二　新勅撰賀　拾玉集七　新続古雅中　千載三　新千載下　風雅雑下　拾遺恋四　続後撰雑中　壬生二五上

[illegible]

俊恵法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新拾雜上　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　左京大夫藤原氏
千生二五上　　君なしとこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　中務卿宮良親親王
風雅五冬　　いかばかりかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　おなじ御子
新葉雜下　　君なしとこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　中務卿宮良親親王
千載雜上　　あかつきの月をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　中納言國信
同雜中　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　左衛門督家成
玉葉雜四　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　左衛門督藤原家成
拾玉集四　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を
千載雜上　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を
月清集上　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を
新葉雜傷　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　中務卿宮良親親王
拾遺哀三　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　同
古今哀四　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を
拾遺秋　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　同
山家集下　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　同
拾櫻秋中　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　同
伊勢物語　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　右京大夫
玉葉哀四　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　黄門藤原

後拾遺哀二　　今とてもかくてぬれぬ袖をつゆ　小野小町
玉葉哀三　　君なしとこの世をかくれもてこの世を　院中納言
風雅哀三　　あかつきの月のかくれもてこの世を　院御製
拾遺哀　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　右京大夫
新葉賀　　君すくなくなりにけるかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　花山院
後拾雜中　　うらやましかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　花山院
新拾遺一　　なにとかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　源義種
後千雜中　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　源義綱
後拾遺雜上　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　枇杷大納
長秋詠藻上　　人かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　枇醍醐天皇御製
新葉雜上　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　昭訓門院御製
玉葉雜一　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　園大納言
山家集下　　世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　近二位殿
新千雜中　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　花原左兵衛
千載雜中　　世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　花原左兵衛
拾遺哀三　　うしとこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　花原左兵衛
拾櫻雜二　　かくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世をかくれもてこの世を　因院左大臣

拾遺哀傷上
壬生忠岑
拾遺哀傷
古今哀傷
風雅雜中
新拾雜中
風雅雜下
新拾哀傷
拾玉集七
千載雜中
新千載上
拾遺秋
玉葉哀傷
拾遺哀傷下
拾玉集七
玉葉雜
拾玉集又
同六

世中は
つねにもがもな
渚こぐ
あまの小舟の
綱手かな
きみこずは
たれかは
ねもの
思はむ
かてもいかでか
かてもいかでか
世にあらん
かてもつれなく
思ひ
かてもつれなく
思ひ
かてもつれなく
思ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新勅撰巻二　太上天皇
壬生二首上　あかつきのしもかとみるまでに
新勅撰二　かけぬるかとのかたぶくまでに　西行法師
続古今　かけてたれかはとはまし　藤原為家
千載巻四　かけてとはまし　宮内卿
拾玉集七　かけてとはまし　慈円
新千秋上　かけてとはまし　万秋門院
山家集上　かけてとはまし　
拾玉集二　かけてとはまし　
大和物語　かけてとはまし　
玉葉巻四　かけてとはまし　
風雅巻　かけてとはまし　今上御製
新千秋上　かけてとはまし　源俊頼朝臣
月清集上　かけてとはまし　源公忠朝臣
続古今下　かけてとはまし　贈空上人
壬生二首中　かけてとはまし　
金葉巻下　かけてとはまし　
風雅巻　かけてとはまし　大納言経任
　　　　かけてとはまし　源後撰作者

新続古今　山路に深雪をふみわけて
風雅巻中　初の雪はまだ星をてる月の
同巻四　はるかにかすみたちこめて
新勅撰三　うらにはかすみたちこめて
同秋下　さびしさにたへぬ山路の
金葉巻下　まくらにかすみたちこめて
玉葉巻四　かすみたちこめて
新千巻一　かすみたちこめて
月清集上　かすみたちこめて
新古巻三　かすみたちこめて
風雅巻中　かすみたちこめて
玉葉巻二　かすみたちこめて
金葉巻上　かすみたちこめて
拾玉集五　かすみたちこめて
同　かすみたちこめて
玉葉賀　かすみたちこめて
新勅撰二　かすみたちこめて
同秋下　かすみたちこめて

源俊頼朝臣　今上御製
藤原定家朝臣　藤原為家朝臣
藤原家隆朝臣　藤原定家朝臣
藤原定家朝臣　藤原定家朝臣
藤原定家朝臣　藤原定家朝臣
藤原定家

風雅秋下　月のあけまそらくのこれもかけのうすくなりぬる庭の池水　おなじ神主経頼
後拾賀　おくまなくてかはのせゝをかけのこるあさぢがはらの秋の月　冷泉宮[illegible]
玉葉神祇　神風や[illegible]かけのこるあさぢがはらの秋の月　後鳥羽[illegible]
新拾遺雜一　なかるゝ紅葉を[illegible]のこりて[illegible]　[illegible]
拾遺雜二　春やこゝ秋やいづくぞ[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新勅雜二　まやこゝ秋やいづくぞ[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新千雜上　おく山の[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後拾雜中　うゝきまつりの[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新後拾秋上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新古神祇　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
風雅雜上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後千[illegible]　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
拾玉集七　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新勅[illegible]　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新古[illegible]上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新千[illegible]　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
玉葉雜二　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新古[illegible]上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]

風雅秋上　ひゝすゝかぬ[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　永福門院
新千秋上　いなせ海や[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
拾玉集一　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
壬生二品下　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後撰[illegible]三　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後千[illegible]　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新千神祇　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後古秋上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
新古[illegible]下　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後拾遺雜上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
拾遺[illegible]雜[illegible]　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
拾遺[illegible]上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
山家集下　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後[illegible]拾雜上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　惟宗忠秀
拾遺[illegible]下　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後拾[illegible]上　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
拾遺[illegible]雜　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]
後拾神祇　[illegible]かけのこりてもとまる[illegible]　[illegible]

新後拾遺
俊撰
新後撰
新勅撰上
月清集下
拾玉集二
後拾遺
古今
拾玉集四
風雅
新千載
古今
拾遺
後古春下
古今
新後拾遺
後古春四
新古
拾玉集四
金葉
拾玉集四
拾遺
拾玉集三
後拾遺
後古雜中
新勅雅一
風雅
新古

玉葉
新後
後古
新古
新千載
拾玉集四
新古
拾玉集又
金葉
拾玉集四
拾遺
拾玉集三
後拾遺
後古雜中
新勅雅一
風雅
新古

新拾玉二
新古抄抵
新拾玉
続古玉一
続後拾雑上
新拾玉一
続千玉一
拾遺貞雄
続千玉一
続拾玉一
拾玉集四
続古秋上
新千玉一
続千雑上
拾遺恋五上
於建貞ヲト
玉葉雑三
続後撰秋下

きりたちのぼるなかの花さかりなるを
春のひとしほ花の色ことなれ
たちのぼるなかの花さかりなるを
ちはやぶる神のみかきの
かけてもつくしの神のみかき
かけてもかたらはしかはしれ
かけてもしらぬ神のしるしは
かけてもまつのあきのしるしは
かけてもしらぬ神のしるしは
かけてもかたらはしかはしれ
かけてもかたらはしかはしれ
かけてもかたらはしかはしれ

新拾遺秋上　能因法師
秋の夜をもろ枯とおもふ
かけてうつるは月の光
山もとをひゆく雲の
ゆくへまで
うつる人なしに
新古雜下　前大僧正覺忠
かけてうつるは月の光
ゆくへまで
うつる人なしに
同志入
山川にすみよろこぶ
かけてみてうつる人なし
なにとこの命よりしかけの
同下　源俊頼
吉野川波の上にうつる
かけてみてうつる人なし
新拾遺雜秋　藤原為忠
あすは春ちかくなぬかの合乃
かけてみてうつる人なし
新拾遺雜秋　後三條院
万世と君にはつかへうつる神
かけてみてうつる人なし
新後拾遺雜秋　藤原俊成
雲ゐ一條代はもとより今を
かけてうつる人なし
玉葉志三　待賢門院
山の井にあさくとをもふ
かけてうつる人なし
風雅秋上　伊勢
なにはのうらにうつる月
かけてうつる人なし
後拾遺雜二　源俊頼
なにはのうらにうつる月
かけてうつる人なし
捨遺志二　藤原為家
秋の月のうつるかけ
かけてうつる人なし
月清集上　藤原俊成
秋の月のうつるかけ
かけてうつる人なし
新後拾遺三　藤原為家
つもりてはうつるかけ
かけてうつる人なし
新後拾遺秋　宗尊親王
山の井にうつるかけ
かけてうつる人なし
玉葉志四　源頼朝
池にうつるかけ
かけてうつる人なし
大和物語

壬生二荒中
古今冬
新後拾遺四
仁治遺義傷
陳子志二
月清集下
長秋詠藻
新後拾遺四
玉葉夜
新拾夜
金葉志下
新葉義傷
月清集上
新後拾遺
新勅志一
拾玉集四
新後拾雜上
壬生二荒上

かけてみて秋の深山の月
かけてうつる人なし
かけてうつるかけ
かけてうつる人なし
かけてうつるかけ
かけてうつる人なし
かけてうつるかけ

千載雜中
風雅雜中
新後拾雜上
續古冬
後拾遺雜三
新後雜中
續古戀
拾玉集一
新續古雜
續古戀
新後拾雜
山家集下
壬生二月上
同
新後雜中
拾遺愚草上
新後雜
千載雜上
風雅雜上
新後拾雜上
續古雜上
新後拾雜上
新勅撰三
新古今一

山さとのさくらはちりてこのもとに
人もとまらぬ山風ぞふく
かけひのこゑのたえまをとはばや
この春のあけぼのの月
かけひのこゑのたえまをとはばや
かけひのこゑのたえまをとはばや
かけひのこゑのたえまをとはばや

新和歌下　山田さへ今はつくるとちるあれの
新葉哀五　所にとまる雪を見てまつ
長秋二孫僕上　つくづくと初雪をみてさびしの里
千載冬　冷山をれば雪ふる
続後撰雜上　新みてうゑ初めてまた新しき
幻　つれづれとわがうゑそめの
続後撰雜中　心にてつくるあきをきりを
新続古哀二　なりあれば春をとらてひら義
風雜哀四　はるさめもふるうゑ
千載哀又　あけぬとも月やは知を思ふ
新続古雜上　なくなくなりて
新拾哀四　うゑ初めうもきのむ
続古秋下　初雪をいつ又うゑ
新後拾哀二　さくらの散みそやこん
同　つゑ
新千哀　同人の
新続古哀又　ことのそうさにつけても
後撰哀中　久しくもうゑ

かとにかかるあはせさへ
かとにうなりて
かとにうきせ
かとにうきさ
かとにうきさ
かとにうきさ

続後拾遺　かくれてうき世の嵐を思ふ身に　平貞時朝臣
拾遺雑春　春風はなほ吹けうとや山ざくら　菅原輔昭
続後撰春上　百敷の神のうゑ人の神のうゑを　侵二位家隆
新千載秋上　朝ごとにつゆ置そめし白露の　紅葉なりけり
続古今秋上　つゆかはなれぬ心ぞ見えそめ　藤原為家卿
壬生二位上　藤袴宿のかをりの思ひ出に　為氏卿
月清集下　八重ぬれつゆ久しかれ山里の　
新拾遺下　咲のこりたるもみぢ山　
同雑上　ぬれそぼちぬる袖の色やうつ　
新古今冬　かくれてうき秋の山里　
拾玉集四　ぬれてうつる秋の山里　
同二　かくれてうつる秋の山里　
新続古今秋下　
拾玉集又　
新千載秋上　
続古今春上　
拾遺愚草上　
壬生二位上

続古今下　かくれてうき花の陰の水の面に　春宮資平
玉葉雑四　うつるも知らぬ秋の月　良経法印
山家集上　かくれてはなほ山の　
新葉恋三　恨ぬ月もうきぬるかな　民部卿光資
新古今恋三　かくれてうつる花の陰の水　前大僧正慈円
続後撰恋　かくれてうつる河原の月　花園
続後拾遺恋　かくれてうつる水の月　花園左大臣
続拾遺　かくれてうつる月　
続後撰恋三　かくれてうつる月　
新千載恋　かくれてうつる月　
拾遺愚草中　かくれてうつる月　
玉葉雑四　かくれてうつる秋の月　
拾遺愚草上　かくれてうつる秋の月　
新古今恋三　かくれてうつる秋の月　
新千載　かくれてうつる秋の月　
続後撰恋三　かくれてうつる秋の月　
拾玉集四　かくれてうつる秋の月　

新葉夏上　かすみたつ　かすみたつ　はるのやまぢ
新後夏上　いそのかみ　ふるのさとにふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
拾遺愚秋上　ながめつる　ふるのさとにふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
拾玉集七　ふるのさとにふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
同六　みすのうちに　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
拾遺恋三上　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
拾玉集四　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
同　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
同三　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
新後秋上　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
新拾神祇　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
新後雑上　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
同　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
山家集上　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
拾遺恋三中　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
新拾雑上　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
拾遺貧窮　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ
続千載下　ぬれぬれて　ふるゆき　かすみたつ　はるのやまぢ

新宣陽門院　後二條院御

後二條院御

[illegible]

[illegible]

[illegible]

於玉集四
張古秋下
張古雜上
月清集下
張古雜上
新後雑上
於遺恨上
風雅 張
新張古冬三
張古春上
拾遺貞雅上
金葉賀
新古戀張
張後拾春下
新勅春下
新古冬賀
張後於雑秋
同雑上

なかるる山のみねの白雲
かなるる山のみねの白雲
なかるる海のなかなる雲の
なかるる海のなかなる雲の
後山みるかぎりの雪の
かなるる海のなかなる雲の
新ちるる海のなかなる雲の
かなるる海のなかなる雲の
しらなみのたちかへる雲の
かなるる海のなかなる雲の
かけて新ちるかぎりの雪
かなるる海のなかなる雲の
つるるかぎりの雪の
かなるる海のなかなる雲の
ゆきかぎりの雪の
かなるる海のなかなる雲の
ゆきかぎりの雪の
かなるる海のなかなる雲の
ゆき

新勅撰
続拾遺
新勅撰
拾遺愚草上
玉葉秋下
拾遺愚草
古今百
拾遺愚草
新古今
推定
壬生二条下
新古百
菱
風雅秋上
玉葉春上
壬生二条中
拾遺愚草上

郭公なくやさつきの夜ごとに
あやめふく軒の端の
山ほとゝぎすなくこゑ
年のうちの
ふるさとの
ふるさとの
うえこゑのあやめ
あれまくの
うつしうえのうへの
あれにけり
ほとゝぎす
ほとゝぎす
ほとゝぎす

後撰 哀傷
新勅撰 哀傷
拾遺愚草
同
新古哀傷
後撰 哀傷
風雅 雜下
後千 雜上
後古 雜下
後千 雜中
玉葉 雜六
壬生二品上
玉葉 哀傷
新後撰 雜下
新後拾遺 哀傷
大和物語
拾玉集 一
後拾 雜上

みやこをいでてはるかにくるしみをなげくこころをよめる
ながらへばまたこのごろやかくばかりもの思ふ春の人と成らむ
ながらへばまたこのごろやかくばかりもの思ふ春の人と成らむ
今はうしなはれぬるかとおもひてよめる
ながらへばまたこのごろやかくばかりもの思ふ春の人と成らむ

月清集上　山家集上　頃日の御会にてよめる山川の水
拾玉集七　をとこやまの山もみぢ　頃日の御会
金葉二　いかばかりそめてはてぬる山里の　頃日の御会
続拾遺上　梅の香の花ぞ雪にまがふ　大嘗会の直廬
壬生二条上　あかつきの風にたぐへてうへ置　山路入道左大
同　雪の降るこのもとにぬる山里は　頃日の御会
拾遺負部上　みるにより弁のうちまで開かなん　頃日の御会
月清集下　世中は雪の降るにあらねども　頃日の御会
玉葉秋下　梅の花ぞ雪にまがふ　頃日の御会
拾遺愚草上　人とはぬ宿の山路の雪ぶかし　頃日の御会
続後拾遺秋　頃はぬ雪の降りつもれども　頃日の御会
金葉別　家ひろいつくしてあひし秋の夜の　頃日の御会
続千載上　と知れば雪きまがふ　頃日の御会
新古今上　あるべきものとしらでこそ　頃日の御会
続古今上　秋の雨は雪ぞ降りける　頃日の御会
新拾遺上　ひとりぬる夜の月の雪ぞ　頃日の御会
拾玉集四　雪ぬ月の山路の雪ぞ　頃日の御会
山家集上　いかばかりそめてはてぬる山里は　頃日の御会

拾遺恋　貫之
同雑恋　ちぎりきと言ふ
後撰恋　ふるの山路
同秋下　頃日
新勅撰上　拾中納言
拾玉集一　頃日の御会
山家集上　頃日の御会
続千載下　頃日の御会
後撰恋　頃日の御会
拾遺恋　頃日の御会
拾遺愚草上　頃日の御会
続拾雑秋　頃日の御会
新勅撰一　頃日の御会
同雑下　頃日の御会
続拾雑上　頃日の御会

壬生二荒上
後撰秋中
新後古歌三
玉葉賀
新葉秋下
拾玉集四
風雅賀
山家集下
新千載雜上
後拾遺雜後
後拾雜下
新葉哀一
玉葉雜一
新古雜中
玉葉秋上
後拾遺雜秋
拾玉集六
山家集下
拾遺哀下
後拾遺賀
新後古賀
長秋詠藻下
山家集下
拾玉集三
同
壬生二荒中
後拾遺秋上

月清集
拾玉集五
後古歌二
新勅雜三
拾玉集五
後撰哀下
拾遺雜哀
拾玉集六
山家集下
拾遺哀下
後拾遺賀
新後古賀
長秋詠藻下
山家集下
拾玉集三
同
壬生二荒中
後拾遺秋上

古今哀一　哀せとはなきせ川はせゝ　かくらけすもあるとも　ふるとしの
伊勢物語　哀せとみるゝ山ゝはせゝみきき　かくらけすもあるとも
拾玉集三　哀せんとみるゝ山ゝはよるみきき　かくらけすもあるとも
玉葉神祇　人ゝとゝもとゝもとゝもとゝもとゝもとゝ　かくはあるとも
拾玉集二　うへしも程のうへしてもとゝ哀とゝ　かくハ同しんあるとゝ
新拾物名　うゝもせゝしゝのゝ山をゝ哀ゝ　かくはゝゝゝゝゝゝ杜の志の縄
壬生二荒上　ゝゝもゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよ新ゝ老よあハすん
拾玉集六　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよ高砂の葉本ゝ
新後神祇　いとゝゝ君も自ひとゝゝゝゝゝゝゝ　かくよ百枝の花
拾玉集四　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝ新ゝ秋ゝゝゝゝ紙
後後拾神祇　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよつゝゝゝゝゝゝゝゝ
新拾同　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよつゝゝゝゝゝゝゝゝ
拾遺雜秋　あゝ引の山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよつゝゝゝゝゝゝゝゝ
後千神祇　一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風雅雜上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
拾遺愚草下　うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新古神祇　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
拾玉集三　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

新後撰　書日野のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよひとゝゝゝゝゝゝゝゝ
新拾神祇　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
同秋下　いつゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新勅神祇　給廉河ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
後古神祇　をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
零漂　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
玉葉雜下　みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
同尺教　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後古哀　あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風雅神祇　名ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
壬生二荒下　いつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
拾玉集四　みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
拾遺愚草中　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山家集　あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
拾玉集二　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後雜上　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
同神祇　いつゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
新後拾神祇　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　かくよゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

院御製　達磨門流
第中納言實任
後京極摂政
九河酒船恒
中務卿宮雅
言卿上人
弾正尹忠房親
紀後文朝臣
常盤井入道太政大臣
藤原長秀
法眼玄全

新千載抄
千載拾抄
墨染の桜下
千載拾抄
千載撰抄
風雅抄
玉葉雑上
千載抄
拾遺愚草中
千載拾抄
新千載上
千載拾抄
新千載雑上
千載古今上
拾玉集上
新古今雑上
風雅抄

天の川あさ瀬しらなみ
いそがしく
墨染の
山の端の月や
いそがしく
なれるまつ
山の端の月
なれるまつ
なれるまつ
なれるまつ

拾遺愚草中　立秋

張子和秋　[illegible]

古今能因　[illegible]

張古秋上　[illegible]

張俊拾秋　[illegible]

古今賀　[illegible]

玉葉秋　[illegible]

俊拾遺冬　[illegible]

河花冬　[illegible]

拾遺負外下　[illegible]

張俊拾冬　[illegible]

新拾遺　[illegible]

玉葉五冬　[illegible]

張子秋下　[illegible]

長秋詠藻　[illegible]

風雅夏　[illegible]

俊撰夏　[illegible]

新古夏　[illegible]

[illegible]

[illegible]

新古神祇　拾遺神祇　後撰神祇　後拾神祇　玉葉神祇　壬生二荒中　新葉神祇　拾玉集一　同四　新拾遺神祇　新古神祇　壬生二荒下　拾遺員外下　壬生二荒中　後拾遺神祇

天照らすかみのみよより世々にいまはみそぎするかな　清原深養父
みそぎするかみのはらへにあらねどもなほ神ぶるかな　紀貫之
榊とりまがきにしめをかけてこそ　藤原為家
めづらしきかみのみそぎのあけぼのに　藤原為家
何ごとも君とぞ思ふ世の中は　藤原為家
秋津島ちはやぶるかみ　藤原為家
かぎりあるあひみんものは榊葉の　藤原為家
いつしかの清らの末の世なりとも　藤原為家
うゑうゑのちかひ山川をのこす素　藤原為家
まつの人の清らの社をのこす素　藤原為家
とりかさねうゑをまもる山　藤原為家
そなへもつてさんしん出家清原　藤原為家
さかのぼる家の義をとみかくる　藤原為家
君が代は山ものこけさかぬ風よ　藤原為家
みそぎの川ありすがたちぬ紙屋　藤原為家
をく雲のゆかりをたれ榊葉　藤原為家
榊葉をはつ雪ぞ　藤原為家

清原深養父　紀貫之　藤原為家　藤原為家　藤原為家

壬生二条中
新拾弁紙
風雅弁紙
弁内侍
拾遺弁天
同
古今弁内侍
新後弁紙
拾遺恋三上
弁内侍
新後拾雑春
新弁古弁紙
弁内侍紙
狭衣三
新古弁紙
後拾遺雑四
弁内侍
同花雑上

ゆふ山ちのもとの山かつら
弁のみつもとひろはん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のみまへはるかすまつ
弁のみつもとそ思ふ
弁のみまへはるかすまつ
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のみまへはるかすまつ
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のみまへはるかすまつ
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のみまへはるかすまつ
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん
弁のこゝろひとゝ苗とゝあん

源初行
弁内侍
弁内侍
弁内侍

新拾弥彦
新後弥彦
山家集下
金葉集
新葉弥彦
千載弥彦
新古今哀
拾玉集一
同七
拾遺愚草上
続古今
続千弥彦
新続古今弥彦
新古弥彦
続千弥彦
続後撰弥彦
新続古今二

平行氏
業平孫
従五位下
かすがのみかさ山にいでしつきかもかくれぬとみるまで
かすがのみかさ山にいでしつきかもかくれぬとみるまで
かすがのみかさ山にいでしつきかもかくれぬとみるまで

古今春上　基氏のひろ沢にあそぶ　かつらの雪とあるを後にみる　為康秀
新古神祇　[illegible]　[illegible]　[illegible]
続後拾雑上　[illegible]　[illegible]　[illegible]
続古歌部　[illegible]　[illegible]　[illegible]
新続古雑部　[illegible]　[illegible]　[illegible]
新後冬　浦人も[illegible]　[illegible]　後嵯峨院
拾玉集三　[illegible]　[illegible]　[illegible]
同五　[illegible]　[illegible]　[illegible]
続後撰賀　[illegible]　[illegible]　[illegible]
新千雑中　[illegible]　[illegible]　[illegible]
新後賀　[illegible]　[illegible]　[illegible]
新後拾神祇　[illegible]　[illegible]　[illegible]
風雅賀　[illegible]　[illegible]　[illegible]
新千雑中　[illegible]　[illegible]　[illegible]
続拾賀　[illegible]　[illegible]　[illegible]
山家集上　[illegible]　[illegible]　[illegible]
風雅恋一　[illegible]　[illegible]　[illegible]
千載雑上　[illegible]　[illegible]　[illegible]

太上天皇
忠房親王
西園寺入道
[illegible]
荒木田経世
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新拾遺下　君ゆへ人々ふきうかしたるこの志賀の山
大和物語　まうりをおしみふかうしれと
新後拾遺神祇　ゑまそ八三代はつへてゑ津嶋
新古雑下　清水ちかくなれてつりする人
長秋詠藻下　うゑ山ゆそちれ浪ふきあ
拾遺愚草上　いせの海おうるあるよきうつ貝
新千載雑中　海ふかく浪よりうゑ芦ひの
玉葉雑五　ゆくもきやうひ和歌
山家集下　家の風吹てゝもワ
新拾遺雑中　てゝもひうゑ人ゆ
新後拾遺雑中　うゑちれ浪ふ
新後古雑中　和歌浦乃芦をゆ
拾遺雑下　かとゆてゝとゆ人
新古冬　吉野なるあるれ
新後拾冬　をゝ雪をゝひて
新葉恋一　歌てひりやゝ
新後古恋二　歌て物やゝ
拾玉集一　菱ふゝうゝ

かひあるはゝ浦ふきうゝを
かひあるゝくもりとゝそ
かひあるかれ恋ゝ
かひあるうゝあゝ
かひあるうゝ
かひあるゝ濃れ
かひあるゝとゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ
かひあるゝ

住吉多度浦歌
拾大伝歌
住白川法皇
清守四冬
前参議乃相
前内白左下
前大納言乃民
従三位行久
花原仲文
湯原王
等持院贈太下
左大臣長親
明魏法師

同三
壬生二条中
新勅雑一
拾遺冬
住拾遺恋二
新住拾冬
住撰雑二
拾玉集一
玉葉秋祇
後住拾恋
拾遺負外下
後冬
拾玉集四
同
山家集上
新住雑下
風雑冬
拾玉集四

ゆゝ
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの
かもの

住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦
住吉乃浦

住吉乃浦
左馬頭行任
和泉式部
左大臣
三条右大臣
右中将定家
平時村卿
中務卿恒明親王
大納言実房
大納言実房

古今集下　みくまの　かせふかしてよもすがら　つくゆき
新後撰下　花さかぬもの　かせにもまれ山さくら　後撰人麿
拾遺貞夫上　野人の家萩乃下露ぬきみだり　かせよ吹く秋ぬけぬる
拾玉集二　海のきさり秋乃野原を吹とよ　かせよ吹あらしの千ぐさ
同又　くるよりあるの葉乃秋を吹とよ　かせよ吹あらしちるとそ
新葉長雨　露乃玉を葉乃秋を吹とよ　かせよ吹ものと秋ぬるあき
月清集上　雲むらふ秋乃末を吹ぬ篠原　かせよ吹ものと秋ぬるあき
拾玉集一　久しく吹月も袖とてしすん　かせよ吹ものと秋の白へと
後拾遺雜秋　夕浪の後をを波をまくとそ　かせよ吹ものと秋の白へと
同春下　山川よ春ゆくあらしをを　かせよ吹ものと秋の白へと
後拾遺雜上　なりてとかりよりれ山さくら　かせよ吹ものと秋の白へと
新葉春下　月のうち影の物ハ波のうしく　かせよ吹ものと秋の白へと
新後拾春上　あの世も波のしとを思ふ春之　かせよ吹ものと秋の白へと
後拾雜秋　ゆるされハ玉ぬく秋色の露乃　かせよ吹ものと秋の白へと
新葉秋上　一本ぬく雲乃とを波よみそ　かせよ吹ものと秋の白へと
新拾雜秋　みそ色ハさの河原よりかけ　かせよ吹ものと秋の白へと
風雅冬　吹くの風篠も白くなりよりの　かせよ吹ものと秋の白へと
冬葉上　くれてうるおるなりの雪　かせよ吹ものと秋の白へと

月清集上　波乃すさハ乃月乃玉乃　風よ吹ものと秋の白へと
新拾冬　村雨乃露乃玉乃　風よ吹ものと秋の白へと
新拾秋上　神乃ぬきとるしの　風よ吹ものと秋の白へと
風雅賀　ちるくとまるる白い物の花　風よ吹ものと秋の白へと
拾三集四　ありて花乃ぬきまを人ハ　風よ吹ものと秋の白へと
拾遺雜春中　夕月夜入野乃ぬ花乃ぬくと　風よ吹ものと秋の白へと
後拾春下　ちる花乃浦を岩根の吹つ　風よ吹ものと秋の白へと
新葉冬　ぬるまを吹ものを山川の　風よ吹ものと秋の白へと
玉葉秋下　ぬるまを吹ものを山川の　風よ吹ものと秋の白へと
拾玉集一　ぬるまを吹ものを山川の　風よ吹ものと秋の白へと
新後雜上　うち山ぬ花乃物ぬ吹ん　風よ吹ものと秋の白へと
風雅恋三　人ぬ家のさて花乃世ぬ　風よ吹ものと秋の白へと
新後古恋　知ぬ家の本を吹ぬ　風よ吹ものと秋の白へと
拾遺愚草上　神ハ本を秋ハ吹ぬ　風よ吹ものと秋の白へと
拾玉集四　庭の私雜の所とぬ　風よ吹ものと秋の白へと
同六　行く波ハ長ぬ花乃ぬ　風よ吹ものと秋の白へと
新葉冬　吹ぬ長ぬ花乃ぬ　風よ吹ものと秋の白へと
山家集上　水ハ　風よ吹ものと秋の白へと

家集　加

新古秋下
大和物語
新続古秋
続後拾秋
千載雜下
拾遺貞敦王
風雅友
月清集上
続後撰雜
拾遺物名
新後撰
長秋詠藻
拾遺貞敦王
玉葉雜
新拾雜下
玉葉
拾遺恵草
新続古雜下

かせをうつるの秋の山のあ　基之新古秋下
かせをうつしてつきぬをし　俊成
かせをうつしみそ　入道前関白太政大臣
かせのこゑかなしとぞ　源有房
かせをのこゑかなしとぞ
かせをあらしとぞ秋の雁
かせをあらしとぞ一数
かせをあらしとぞ　清原元輔
かせをあらしとぞ
かせをあらしとぞ　九条前内大臣
かせをまきてとぞ
かせをまきてとぞ　中納言定家卿
かせをまきてとぞ
かせをまきてとぞ　山水
かせをまきてとぞ　豊宗
かせをまきてとぞ　秋
かせをまきてとぞ　花園院御製
かせをまきてとぞ
かせをまきてとぞ　為定上人

風雅雜上
月清集下
続後拾冬
山家集上
拾遺貞敦王
新勅撰
月清集上
続後撰雜
風雅秋下
金葉雜
弥法
俊撰秋下
拾玉集六
俊撰秋下
風雅友
新千雜
続後撰雜上
山家集上

かせをあまたかりとりぬ　基之新古秋下
かせをあまたかりとりぬ　俊成
かせをあまたかりとりぬ　道法法師
かせをあまたかりとりぬ
かせをあまたかりとりぬ
かせをあまたかりとりぬ　よみ人しらず
かせをあまたかりとりぬ
かせをあまたかりとりぬ　第六御子為氏
かせをあまたかりとりぬ　儀子内親王
かせをあまたかりとりぬ　太宰大弐長実
かせをあまたかりとりぬ
かせをあまたかりとりぬ　ちかつぐ
かせをあまたかりとりぬ
かせをあまたかりとりぬ　進子内親王
かせをあまたかりとりぬ　花園院御製
かせをあまたかりとりぬ　縁喜公大臣

風雅秋上　源重之女
新後雜上　権中納言公雅
拾玉集一
拾遺秋
新葉夏
拾遺愚草
新後撰下
金葉長
風雅雜上
壬生二条上
千載雜下
玉葉秋上
新千載上
風雅夏
玉葉冬
壬生二条下
新後拾秋上
同

まがくしに秋むかへしやあらぬ
かせよもすがらうちはらふ
いつかはてはしらぬかりてん
かせよもすがらうちはらふ
いつくらもりのくもをみてわけよ
かせよもすがらうちはらふ
秋の夢をうつしてみるものは
かせよもすがらうちはらふ
山のもとの柳のうらにあらはれて
かせよもすがらうちはらふ
うらもとのきくのうへのしらつゆ
かせよもすがらうちはらふ
ふるさとのあれたるやどのあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
まをまよはしたるやどのあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
山のはにかたぶくつきのあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
大ぬさのかぜにうつりてあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
あるかぎりのあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
吹ぬるのこのあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
ものかなしきあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
ありあけのつきのあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
ふるのやしろのあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
ながめてもあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
ながめてもあきのかぜ
かせよもすがらうちはらふ
ながめても

月清集下　風より時雨ふる時は月影
山家集下　義さ葉は庵のさびしきに　風ふかぬ夕べもなくて
古今秋上　日ぐらしのなく山里は　風ふかぬ夕べもなくて
後撰雜上　里遠みなく蝉の　風ふかぬ夕べもなくて
同雜列　里遠みなく蝉の　風ふかぬ夕べもなくて
壬生二首中　風ふかぬ夕べもなくて
拾遺愚草　風ふかぬ夕べもなくて
月清集下　風ふかぬ夕べもなくて
拾玉集六　松ふかぬ夕べもなくて
拾遺愚草上　風ふかぬ夕べもなくて
拾玉集四　末枯れの夕べもなくて
同六　風ふかぬ夕べもなくて
新拾雜上　風ふかぬ夕べもなくて
新千載　風ふかぬ夕べもなくて
拾玉集六　風ふかぬ夕べもなくて
玉葉九　風ふかぬ夕べもなくて
新後古雜上　風ふかぬ夕べもなくて
新古雜下　風ふかぬ夕べもなくて

風雅雜中　風ふかぬ夕べもなくて
金葉雜　風ふかぬ夕べもなくて
拾遺愚草上　風ふかぬ夕べもなくて
後古秋上　風ふかぬ夕べもなくて
玉葉　風ふかぬ夕べもなくて
壬生二首中　風ふかぬ夕べもなくて
拾玉集三　風ふかぬ夕べもなくて
新後雜上　風ふかぬ夕べもなくて
後拾雜下　風ふかぬ夕べもなくて
月清集上　風ふかぬ夕べもなくて
拾遺愚草上　風ふかぬ夕べもなくて
新後拾雜　風ふかぬ夕べもなくて
古今秋上　風ふかぬ夕べもなくて
後千雜　風ふかぬ夕べもなくて
山家集上　風ふかぬ夕べもなくて
新後古雜上　風ふかぬ夕べもなくて
古今秋上　風ふかぬ夕べもなくて
拾玉集一　風ふかぬ夕べもなくて

新古雜上
拾玉集六
百葉各
壬生二月中
新古拾雜上
後拾遺哀傷
後拾遺哀傷
後拾撰哀上
後千載雜上
紅梅
新葉集冬
拾遺冬上
金葉集
新古雜上
拾遺哀傷
後拾撰哀上
壬生二月上
同中
古今哀
壬生二月上
拾玉集一
壬生二月上
新勅撰上
後拾撰哀上
風雅雜下
新後古秋下
拾玉集三
新古雜下
新後拾雜下
拾遺秋
拾玉集二

かせのをとせぬもちろん　大納言忠教
かせの殘る梅ばかりか　中務卿宮雅
かせのをとしぬ春の和歌　中務卿宮雅
かせのくつをまつ　正三位通茂
かせのけふの花の　従二位家隆
かせのうけふ歌ばかり
かせのさきもあらぬ
かせのさきもあらぬ
かせのさきもあらぬ　中納言朝忠
かせのさきもあらぬ　皇太后宮大夫俊成
かせのさきもあらぬ　安法法師
かせのさきもあらぬ　大納言為兼
かせのさきもあらぬ　中納言家通
かせのさきもあらぬ　平時村朝臣
かせのさきもあらぬ
かせのさきもあらぬ　中務卿宮雅
かせのさきもあらぬ　皇太后宮大夫俊成
かせのつくもあらぬ　中納言俊忠
かせのつくもあらぬ
かせのつくもあらぬ

拾遺哀草
後古哀傷
後拾撰秋上
壬生二月上
同中
古今哀
壬生二月上
拾玉集一
壬生二月上
新勅撰上
後拾撰秋上
風雅雜下
新後古秋下
拾玉集三
新古雜下
新後拾雜下
拾遺秋
拾玉集二

風のおとのいかにさびしく
風のうへにあらぬ
風のうへにあらぬ　前大僧正慈円
風のうへにあらぬ　皇太后宮大夫俊成
風のあらしや松のうへ
風のあらしや
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし　小野宮実頼
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし　菅原在良朝臣
風のまくらもさびし　従二位家隆
風のまくらもさびし　前宰相中将実雅
風のまくらもさびし　中務卿具平親王
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし　権大納言通光
風のまくらもさびし　従四位上民部卿藤原保定光朝臣
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし
風のまくらもさびし

同三

新後撰上

大和物語

玉葉雜二

拾遺愚草上

拾遺貞範卜

新拾遺上

新古歌撰

新後撰雜中

玉葉秋上

金葉夏

拾玉集四

壬生二首中

新拾遺下

新千載傷

新後拾遺

新拾遺抵

玉葉冬

さかぬ、ものを、ぬ人ぬ世よ住の江の
あれはやて、好きよをけれる
きのつまのむろのこりよりあ今
ぬるとをこ屋をこ人は松のけや
ま末のつよ雲乃者もをそ中て
ワひつ、ハ花ゆ今しむ者も
遠をの松を雲よりつれく
あるを秋と夕をこうみて
左の松くれる行をれ
夕附日はひ、き新八をそ
六月のてる月新ハさ、ものく
雲の雲ものさるく夏本立
今朝みれ松の花ゆ雲
ま末をほるの今花をそさ
定めをく人乃ゆ世もるの
外垣よ咲そ山花をみくま
ま雲の者ま末ま可ま
雲とあそ月ゆ者ゆ

風の袖を松よ海ゆ世ん　今上御製
風のをうゆ梅ゆそ乃
風のをむ者も松ゆ今
風のをそ中ゆ者をそ乃
風の行末よ者ひく対ゆ
風の行末よ者ま末ゆく
風のを花の者にけ
風のをゆ者ゆ者の者ひて
風のをたゆ者ゆけ者
風のをの乃者の萩原
風のを雲ま末ゆ乃者
風のを雲ものゆ者ゆ
風のを者ゆ者ゆ白雲
風のを者ゆ者ゆ山花
風のを者ゆ者ゆ者
風の者ま末ま者ゆ世
風の者ま末ま者ゆ
風の者ま末ま者ゆ
風の者ま末ま者ゆ

院御製

民部卿
皇太后宮大夫俊成
藤大納言家成
入道前太政大臣
摂政太政大臣

伏見院新撰和
歌六帖
藤大納言為家
家成卿女
開白前太政大
臣兼上人

拾遺貞範卜

後拾遺春

後古今集四

拾玉集三

新後撰下

玉葉雜三

拾玉集四

同一

拾遺愚草上

新勅撰上

古今物名

同六二

新千載一

風雅秋上

後拾遺雜中

風雅冬

拾遺愚草上

ワのをとよりつのをの松ゆ人
けるをゆ分れ者ゆ
あ末の今ハ乃ゆ
夕ゆれ者ゆ者ゆ
あ者ゆ者ゆ者の松の松ゆ
行ゆ者ゆ者ゆ者ゆ
山人の者ゆ者ゆ者ゆ
ワれ山ゆ者ゆ者ゆ
信人乃者ゆ萩ゆ
者ゆ者ゆ一松ゆ
白ゆれ波ゆ者ゆ者ゆ
ゆ者ゆ者ゆ者ゆ
霧ゆ者ゆ者ゆ者ゆ
いゆ者ゆ者ゆ者ゆ
者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ
如ゆ者ゆ者ゆ者ゆ
者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ
者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ
者ゆ者ゆ者ゆ者ゆ

かせまちつけ人事ゆ
かせまちれのゆ者ゆ
かせまちれゆ者ゆ
かせまちゆ者ゆ者ゆ
かせまちれの雲ゆ者
かせまちれ雲ゆ者
かせまちれ者ゆ者ゆ
かせ吹ゆ者ゆ者ゆ
かせゆ者ゆ者ゆ者
かせゆ者ゆ者ゆ者
かせゆ者ゆ者ゆ者
かせゆ者ゆ者ゆ者
かせゆ者ゆ者ゆ者
かせゆ者ゆ者ゆ者
かせゆ者ゆ者ゆ者
かせゆ者ゆ者ゆ者

太宰大貳ゆ遠
忠光ゆ

藤原定家朝臣
平忠盛
延喜御製歌

同
ゆみ人ゆ者ゆ
従二位教子
四条大納言
大政大臣
進ゆ門親王

千載古春下　春一日の花の玉ゝ春吹とけて　かせにちるかな白雲の　大納言良教
同上　ちりかへるむしの声のあるかぎり　かせにちるかな秋の夕雲　侍従藤門院
同花秋　春世次ハ雁ゝ鳴ん吹ゝ　かせにちるかな萩の上露　源通親
拾玉集二　ゝ雲ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
同四　ゝ月ゝ吹ゝ秋ゝ　かせにちるかな
同　花ハ波ゝ紅ゝ山ゝ　かせにちるかな
月清集上　霜ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
新拾雜秋　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
月清集下　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
拾玉集四　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
同　秋ゝ吹ゝ　かせにちるかな
拾遺愚草上　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな　藤大納言公経
玉葉文　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな　藤大納言実氏
千載古秋上　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな　中納言家
山家集上　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな　月花門院
山家集下　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな　侍中納言長方
玉葉冬

千載古冬　みゝこれハもゝ紅ゝ山ゝ　かせにちるかな　侍大納言経朝
山家集下　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
同　ひゝ人の　かせにちるかな
新拾賀　君ゝ代ハ千歳ゝ波の　かせにちるかな
千載古賀　幾重もゝ　かせにちるかな　西園寺公経
拾玉集三　波ゝ　かせにちるかな
同四　春ゝ　かせにちるかな
新古文　雲ゝ月ゝ　かせにちるかな　藤原俊成
新古雜中　むゝ　かせにちるかな　藤原定家朝臣
玉葉冬　山ゝ　かせにちるかな　藤原清輔朝臣
千載拾冬　雪ゝ　かせにちるかな　伏見院御製
山家集下　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
新千載古賀　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな　太上天皇
千載古秋上　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
拾玉集二　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
長秋詠藻中　霧ゝ　かせにちるかな　永福門院内侍
風雅五中　ゝ月ゝ吹ゝ　かせにちるかな
新後拾雜上　春ゝ　かせにちるかな　法皇御製

壬生三条中　かせもこうしんぬ萩は焼原
月清集下　秋さりぬれはゆく水の　かせもあれをそもろ人の
壬生二条上　百年あまり秋はあるなれとも　かせも拾よりまつ
新拾雑上　日ぐれはなく山のの滝きたに　かせもあきなるあれはは
新後拾上　秋ハさて地ありしかや義のそれ　源時朝
拾玉集四　秋乃しのみはあるしまなるん　法皇清輝
拾遺会員外　ものあるあるもひるるほ
古今　羇旅　かせもそくあるきるれは
風雅賀　きくこゆ春を明るつ　かせはこそそ明るつあるる
新古賀　秋はもれ後のあ秋をもしそ　かせはこれや時もしそ人
同　やとるゆく後のあ秋と君の代の　かせはこうあ行さる時平
風雅雑下　りは後かともつきて君の代の　源家長
後拾雑下　はいあもあるてるこうて年月乃　かせはは後なりりり
後拾雑下　かはこそ昔といつてこの思ひおの　拾中納言家雅
拾遺愚草　いつてもん和みこそ神よりる玉の　かせはもあるぬちのそ
新古羇旅　新しそ月をあるれ和ありしを　かせはもあるぬをそ人
新後古恋一　四五をあ後神より落ちうれしの　西行法師
拾遺愚草　民もみを君の八千世代わかえま　拾大納言為忠
山家集上　あり夏山四のあ百の海海ろ　かせはりうもり年年まれ
　　かせはりうあるあるおつ人り

拾遺雑秋　若ひとひろひいもかんきれ石の　かせもとみかとうろひいくそ　ろうろ人ろてて
後撰恋一　月日をものかをいりるみ君こ　かせもとものをあるあるり　同
新古恋上　いつれをそれとそ月をそ古郷の　かせはれはやはくまの書　九条内大臣
新後拾恋上　書船をくの海ま月をせは　かせはれ世八雪はるむ河　伊勢
壬生二条中　うろ風ろ山のとあるこ和日寺　かせはれを野まをけるり　素
後撰恋五　あるしき恋ろ古ろ乃　かせはれのはまるもむ　大中臣能宣朝臣
新後拾恋上　新の秋紙　かせはれのはは秋もはるり　前関白
壬生二条下　さ河れ松さ和をうへそ　かせはれのはは君ろ八千代と
後拾遺雑秋　ハてあひあるをやろも行ん　かせはれはのろ君ろ八千代
拾遺愚草　分をつをれはけるをきをやまぬ　前大納言公任
拾玉集三　時ろをもはれるをうるるり　かせはれはやはるるり　出羽弁
新勅撰上　なりみをひあるるるるり　かせはれのあるるるり　赤人
壬生二条下　をををて恋ハをあしの朝日寺　かせはの山は雪はれ　ろ人ろ次
新古神祇　月もはるる時あるてるるりく　かせはのはれるの朝　中納言資房卿
新後古春上　万代といのりをかるるるる　かせはの山の雪の朝　鹿苑院入道太政大臣
拾遺恋四　みを山雪もるるるみかをむり　かせはのをの雪れ山の　前太政大臣
壬生二条下　人をれをもるる溪乃はるりて　かせはくくりぬるるる　藤原惟成
月清集上　海山もるをるをれ世年は　かせはくはる溪ありりり
　　かせはくををしるるをを

新後拾三
新拾遺
玉葉集
山家集下
壬生二位下
拾玉集四
同
新古今
続拾雑長
新拾遺上
新後拾雑
長秋詠藻
続古雑中
拾遺愚草上
同下
新古今三
新続古雑中

[illegible]

新千載雑中
拾遺
新後拾遺又
同雑中
続千雑下
新拾雑中
新後拾雑下
千載雑
続千載一
新古雑下
拾遺雑長
続千雑中
新後雑下
新拾雑中
続後撰雑
新千雑上
新葉雑下
若紫

[illegible]

彩葉雑上　藤原為家朝臣
彩扶雑上　かもしかの月のあかつきの
玉葉雑上　雲ゐ
彩初雑一　雲のうへ
玉葉雑四　雲ゐ
彩扶雑上　雲ゐ
拾遺愚草中　雲ゐ
彩扶雑上　雲ゐ
風雅雑上　雲ゐ
扶子雑上　雲ゐ
壬生二条上　雲ゐ
玉葉雑四　雲ゐ
拾遺愚草中　雲ゐ
風雅雑上　雲ゐ
彩扶拾遺雑上　雲ゐ
風雅雑上　雲ゐ
彩扶拾遺雑上　雲ゐ
彩葉雑上　雲ゐ

風雅雑上　藤原為家朝臣
千載雑上　山さとは
風雅雑上　秋ふかみ
扶子雑上　秋ふかみ
玉葉雑下　秋ふかみ
白河院歌　秋ふかみ
彩扶雑上　秋ふかみ
玉葉雑上　秋ふかみ
拾玉集七　秋ふかみ
拾遺愚草　秋ふかみ
同　秋ふかみ
古今秋上　秋ふかみ
扶子拾雑下　秋ふかみ
扶拾雑上　秋ふかみ
風雅雑上　秋ふかみ
壬生二条中　秋ふかみ
拾玉集四　秋ふかみ
彩葉雑中　秋ふかみ
土御門院御歌　秋ふかみ
大納言隆親　秋ふかみ
伏見院御歌　秋ふかみ
小町　秋ふかみ
平貞時朝臣　秋ふかみ
民部卿資宣　秋ふかみ
正三位知家　秋ふかみ
同　秋ふかみ
従二位頼嗣　秋ふかみ
参議雅経　秋ふかみ
従村上源氏　秋ふかみ

玉葉集上　山の陰もきてとうとうの人のゆくすえ　加藤盛方　院御製
同　花とそ見ん山の桜の散りぬれは　二条院讃岐　兼泰法師忠定
続古今上　はるくとあるしのうまに乗りまさる　加藤盛方　従二位頼氏
新後撰上　しら雲と行かたもなく散りぬれは　加藤盛方　紀淑氏朝臣
続後撰上　いくとせ経ぬ春の雪の山里に　加藤盛方　従二位頼氏
続拾遺上　うすくみよかくあまとの乃ふ　加藤盛方　従二位頼氏
玉葉集上　春ひとし花の浮世を山里に　加藤盛方　清宗国基
玉葉集上　くもりなくさやけきこそうもゆく　加藤盛方
新後撰上　春の雲上　雲れとの多くやわさみとり　加藤盛方
続後撰上　かけそ山のあるまに月はさみとり　加藤盛方
続拾遺下　晴れまつこころとりとあくまてそ　加藤盛方　桂中納言定家
新葉集上　末はるとしもなくて春の夜の　加藤盛方　後大納言為定
風雅集上　はるくあるて春の山のうの雲　加藤盛方　従三位頼子
新葉集上　世中は光あくてもまひとの　加藤盛方　従三位頼子
玉葉集上　雲とられ春の新風のゆるる人　加藤盛方　前参議為定
続後撰上　いくふりて春光もちらめ分ま　加藤盛方　中務卿宗尊親王
新後撰上　ちれる花春はひとそ春ま　加藤盛方　前参議為定
風雅集上　春のまとの入日はきえあらはれ　加藤盛方

月清集下　雲はきてうとうとあるの時のうとうん　露の光暁乃うの　院御製
玉葉集上　あき清くひさかたの月の雲のあ　露の光暁乃うの　二条院讃岐
拾遺愚草上　梅の花ちりひの雲八あのはれも　露の光暁乃うの　兼泰法師
風雅集上　春ぬとてあるまとくきの雲の　露の光暁乃うの　従二位頼氏
玉葉集上　ちけき雲とあるあ　露の光暁乃うの　桂中納言定家
明石　あるあ乃あるけはまま　露の光暁乃うの　後大納言為定
玉葉集上　梅乃花うとくれの雲の　露の光暁乃うの　従三位頼子
拾玉集六　春はあ山の雲の　露の光暁乃うの　前参議為定
玉葉集上　春はあ山の雲の　露の光暁乃うの　中務卿宗尊親王
拾遺愚草上　つくくれ春をとくくれの　露の光暁乃うの　前参議為定
玉葉集上　花の光春もたてくて　露の光暁乃うの　従三位頼子
新勅集上　あくとの光くもらくて　露の光暁乃うの　桂中納言定家
拾遺愚草上　春くの光くもらくて　露の光暁乃うの　後三位頼子
続後撰上　春はあくの雲の　露の光暁乃うの　
拾遺愚草上　春はあくの雲の　露の光暁乃うの　
玉葉集上　春はあくの雲の　露の光暁乃うの　

新古歌下　うこゝもいれぬ山ぢのつゆ　かすみにけりの山の月　前大僧正慈円
続拾歌下　ものゝとゝの秋山乃ちぬるゝ　かすみにけりの山の雪　平泰時朝臣
千載雜上　あまのはしたてうちのぼる　かすみにけりの宿ゝとゝ　上東門院宮内
続千載　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　大納言有房
拾玉集六　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　
風雅歌下　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　院御所
新千歌上　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　中大僧正尊円
長秋詠藻下　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　
続拾雜歌　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　如圓法師
壬生二条中　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　
拾遺愚草下　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　
円上　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　
拾玉集一　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　前内閣中有忠
新続古歌上　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　
壬生三条上　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　花園院宮
続後拾遺傷　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　
拾玉集六　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　
続後撰歌上　ものゝとゝの秋の月　かすみにけりの山ぢのつゆ　

続拾春上　立なるゝ花の中ゆくしのれさえ　かすみにけりの山ぢのつゆ　前内閣中有忠
新拾歌上　みなるゝ花の中ゆくしのれさえ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
新古雜下　おなるゝ花の中ゆくしのれさえ　かすみにけりの山ぢのつゆ　花園院宮
続千歌上　おなるゝ花の中ゆくしのれさえ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
拾遺愚草下　おなるゝ花の中ゆくしのれさえ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
玉葉歌上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
新古歌上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
玉葉歌上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
新勅歌上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
山家集上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
新続古歌上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
千載雜上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
新続古雜上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
玉葉歌上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
拾玉集一　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
続古春上　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
月清集下　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　
拾玉集三　きてすめる夕ぢの山ぢのつゆ　かすみにけりの山ぢのつゆ　

壬生二条上　かすみこめる春の夜の月　西園寺大納言実兼
新千載春上　春の夜の月をまちつる山の端の雲はなほ
新古春下　かすみこめる春の夜の月　藤原為氏卿
風雅春中　春の夜の月をまちつる山の端の雲はなほ
拾遺春上　かすみこめる春の夜の月　藤原為家
新勅春上　かすみこめる春の夜の月　宜秋門院丹後
拾玉集七　かすみこめる春の夜の月　
新古哀傷　かすみこめる春の夜の月　藤原定家朝臣
続撰雑三　かすみこめる春の夜の月　
風雅春上　かすみこめる春の夜の月　
壬生二条中　かすみこめる春の夜の月　
壬生二条中　かすみこめる春の夜の月　藤原孝定
新古雑中　かすみこめる春の夜の月　藤原秋教卿
続後拾春下　かすみこめる春の夜の月　
新千載上　かすみこめる春の夜の月　
千載春上　かすみこめる春の夜の月　大納言資行
壬生二条上　かすみこめる春の夜の月　
拾遺春上　かすみこめる春の夜の月　

続後拾雑春　かすみこめる春の夜の月　藤原家隆
新千載春上　かすみこめる春の夜の月　
続後拾春上　かすみこめる春の夜の月　
千載春上　かすみこめる春の夜の月　
壬生二条中　かすみこめる春の夜の月　
風雅春上　かすみこめる春の夜の月　
拾玉集四　かすみこめる春の夜の月　
新勅春上　かすみこめる春の夜の月　
伊勢物語　かすみこめる春の夜の月　
山家集上　かすみこめる春の夜の月　
新拾春上　かすみこめる春の夜の月　
拾遺愚草上　かすみこめる春の夜の月　
続古春上　かすみこめる春の夜の月　
月清集上　かすみこめる春の夜の月　
新続古春上　かすみこめる春の夜の月　
壬生二条上　かすみこめる春の夜の月　
風雅春上　かすみこめる春の夜の月　
拾玉集四　かすみこめる春の夜の月　

拾遺五葉上　たるしぬあみ汲山のひもすがら　かすみよすてる雲ハ
壬生二荒上　山桜しるくも雪のきえぬるは　かすみをそこらくもの元
同　ゆかしさよ雲ハ花ちるひくらしの　かすみこそうつる関ぬ
新古雑初　はひやるこしうりかうしんの　かすみてしてあり月ハ
壬生二荒中　うしろ人ゆ中も春ハ　かすみてそめのあけ
同　春ハ　雲ハ　花ハ　かすみてつそ　ありけ
続拾雑五　雲ハ　うりの山　かすみ　春ハ
雅有　つ　ゆ　ハ　つ　ハ
新拾五上　天の　ハ　ハ　ハ
続後拾五上　雲ハ　初　ハ　ハ
拾玉集一　ハ　ハ　ハ　ハ
新勅雑四　ハ　ハ　ハ　ハ
玉葉五上　山ハ　ハ　ハ　ハ
壬生二荒中　ハ　ハ　ハ　ハ
同　ハ　ハ　ハ　ハ
拾玉集七　ハ　ハ　ハ　ハ
同六　ハ　ハ　ハ　ハ
後拾遺雑春　ハ　ハ　ハ　ハ

新古今上　ハ　ハ　ハ　ハ
拾遺五雑春　ハ　ハ　ハ　ハ
新古今二　ハ　ハ　ハ　ハ
新勅五上　ハ　ハ　ハ　ハ
新後古五下　ハ　ハ　ハ　ハ
玉葉五上　ハ　ハ　ハ　ハ
新拾五上　ハ　ハ　ハ　ハ
拾玉集七　ハ　ハ　ハ　ハ
新古雑下　ハ　ハ　ハ　ハ
新拾雑上　ハ　ハ　ハ　ハ
風雅雑上　ハ　ハ　ハ　ハ
後後撰五下　ハ　ハ　ハ　ハ
壬生二荒上　ハ　ハ　ハ　ハ
後千五上　ハ　ハ　ハ　ハ
新後五上　ハ　ハ　ハ　ハ
壬生二荒上　ハ　ハ　ハ　ハ
玉葉雑四　ハ　ハ　ハ　ハ
同雑一　ハ　ハ　ハ　ハ

新勅雑一
続拾愛下
玉葉雑一
拾玉集六
月清集一
拾玉集三
壬生二荒上
千載雑中
拾遺愚草中
新千載上
拾玉集二
河社雑上
続後撰上
夫集上
壬生二荒中
続後撰上
新拾上
風雑上

さびしさは色なき風にあらしの山
見るもあはれなるかな秋の夕ぐれ
法華経の心を
水うみを雪げの雲ぞ
加茂社
うつの山
雲
和歌の
あ
雲
月
人
雲
雲
雲

風雅五上　　進士尚親
新続古今上　　藤原親
拾遺愚草上　　藤原定家
新葉集上　　藤原為忠
壬生二条中　　藤原為忠
同　　藤原為忠
新続古今上　　藤原為忠
月清集上　　藤原為忠
新続古今上　　藤原為忠
玉葉雑一　　藤原為忠
壬生二条上　　藤原為忠
多武峰少将上　　藤原為忠
続拾遺上　　藤原為忠
拾遺風体　　藤原為忠
新続古今上　　藤原為忠
壬生二条上　　藤原為忠
新拾遺上　　藤原為忠

壬生二条中　　藤原為忠
同上　　藤原為忠
続後拾遺上　　藤原為忠
壬生二条中　　藤原為忠
続千載上　　藤原為忠
大和物語　　藤原為忠
玉葉集上　　藤原為忠
拾玉集七　　藤原為忠
拾遺愚草上　　藤原為忠
同上　　藤原為忠
同　　藤原為忠
同　　藤原為忠
続千載上　　藤原為忠
壬生二条下　　藤原為忠
拾遺愚草上　　藤原為忠
新葉集上　　藤原為忠
新続拾遺去　　藤原為忠
拾玉集六　　藤原為忠

新後拾遺雜上　紀の海や中の湊の潮の朝なけ　加藤清正出家
玉葉集雜下　くれてゆく春の名残りをとめられ　或る人の勧を
続後撰雜上　山桜ちるかとみるまで吹ひらく　送二位家隆
新後撰雜下　ひかの姫の名をそ長くとめ　大納言為世
新後拾遺雜上　よかりそめの袖の涙の　為兼卿
玉葉集七　さほ姫のうすの浦風吹ぬ　為兼卿
続後撰雜上　樵雲に影よりつる山もりの　為兼卿
新後撰雜下　さほ姫の袖の長き風の　為兼卿
新後拾遺雜上　山桜ちるかとみるまで吹ひらく　為兼卿
新後撰雜下　山さとの笑ふまさきの葛　為兼卿
新後拾遺雜上　緑衣なるてくるくるの山の　為兼卿
玉葉集七　さほ姫も山の桜や如かるらん　為兼卿
続後撰雜上　春とはいとふ乃の花の枝ぬきの　為兼卿
新後拾遺雜下　山さとの笑ふまさきの葛　為兼卿
新後撰雜上　ちるかとみるまで吹ひらく　為兼卿
新後撰雜下　山のとまれる明の月もひとり　為兼卿
同雜上　まれつる花なりなりの山桜　為兼卿
新後撰雜下　吉野山ちるもひとりの白雪　為兼卿

新後拾遺雜上　ろ雲の名残の雲の雲の雲の雲　加藤清正
玉葉集雜上　明石ろ雲の名残の雲の雲の雲　皇太后宮大夫俊成
新後撰雜上　花の名残の月の名残の月の名残　加藤清正
新後拾遺雜上　月の名残の月の名残の月の名残　加藤清正
新後撰雜上　花の名残の月の名残の月の名残　加藤清正
新後拾遺雜上　月の名残の月の名残の月の名残　加藤清正
玉葉集六　花の名残の月の名残の月の名残　加藤清正
新後拾遺雜上　月の名残の月の名残の月の名残　加藤清正
新後撰雜上　月

風雅雜上　きのふ見てゆくるるる山のたに　かすみのこりて雲ぞのこれる　後二位為子
玉葉春下　同　ふるさとの梅の花の盛りにあはんとて　九條右大臣女
續後撰春上　うぐひすの羽風なびかすむこの春の　後人もとつけ
壬生二位上　つもるものかなとあるを雨とかすみ　かすみこの春の春を
一名千載上　うぐひすの鳴音や春の風を吹　有著門院女房
壬生二位中　なびかせ雲をうすみどり柳の糸の　かすみこの衣春きてうとん
同　春の雨の山風うすき春の雲を　かすみこの衣ぬるくかほる
新撰和歌春上　春も柳の風をうらまつ　かすみこの衣かりそめなる
同　わるまつ雨の山も春きそそ　かすみこの衣立わかるくる
新撰和歌春上　かつるん柳の糸もうすかりつる　かすみこの衣たぬぬるるさ
同　このあけぼの春の山をきて見れば　かすみこの衣ぬるるとみまに
新撰和歌春上　いつとなく春の下紐とけそめて　かすみこの衣ぬるるてきる雲の
新撰和歌春上　初三の柳の糸の春の雨　かすみこの衣ぬるるてきる雲の
新撰和歌春上　いとの春の雨の山の春の雨　かすみこの衣ぬるるてきる雲の
拾遺集春三　ふるさとの春の雨の山の春の雨　かすみこの衣ぬるるてきる雲の
拾遺集春三　

拾玉集二
山家集上
月清集上
新後撰雜上
後拾遺雜上
後撰雜上
新後撰雜上
後拾遺雜上
後撰雜上
新後撰雜上
後拾遺雜上
後撰雜

拾遺貞享　あらたまの年たちかへるあさなあさな　かすみもやらぬ春の空かな　傍正通服

壬生二荒上　ほのぼのとあけぬるかたの山ぶきの　かすみもやらぬ月の影かな　如竹法師

新後古上　白雪のふりぬる枝の梅の花　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正紀貴

後撰雜上　春代めぐりてたちかへるとも　かすみもやらぬ夕ぐれの空　源俊頼朝臣

壬生二荒中　春霞たちかへるとも月ぞ見る　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正通服

千載春上　春霞たちかへるとも月ぞ見る　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正紀貴

後古雜上　見しの山ぶきはやしをりせば　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正通服

壬生二荒上　春霞たちかへるとも月ぞ見る　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正紀貴

後拾春上　春霞たちかへるとも月ぞ見る　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正通服

壬生二荒中　春霞たちかへるとも月ぞ見る　かすみもやらぬ夕ぐれの空　藤原雅経

同中　春日山雪ぞちりかへるとも　かすみもやらぬ夕ぐれの空　源俊頼朝臣

同上　春霞たちかへるとも月ぞ見る　かすみもやらぬ夕ぐれの空　藤大傍正通

後古雜上　三ヶ月の雲井はるかに春ぬれば　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正通服

拾遺恋中　雲ゐにし秋はこゆかぬ山ぶきの　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正紀貴

玉葉春下　さくらかぜ春の夕ぐれ　かすみもやらぬ夕ぐれの空　藤原雅経

新後古春上　春霞たちかへるとも月ぞ見る　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正通服

拾玉集六　月影のあらぬ山ぶきの　かすみもやらぬ夕ぐれの空　藤原雅経

月清集下　こゆるかぎりの春ぬれば　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正紀貴

壬生二荒下　ほのぼのとあけぬるかたの山ぶきの　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正紀貴

拾遺春上　うぐひすのなくこゑにこそ春ぬれば　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正紀貴

新後古春下　春ぬれば春の夕ぐれ　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正通服

後古賀　池のうへ岩根とのんさくらの　かすみもやらぬ夕ぐれの空　藤原雅経

玉葉集下　君ぞ代は千歳ぞ春の日ぞ　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正紀貴

金葉賀　いはとのぼる鶴ぞ千歳の春ぬれば　かすみもやらぬ夕ぐれの空　傍正通服